

# 道院だより

No.44

金剛禅総本山少林寺 埼玉北浦和道院  
2011年 12月9日(金) 発行  
文責 道院長 梶谷 憲 皇

合掌

## 信条

一、我等は、魂をダーマよりうけ、身体を父母よりうけたる事を感謝し、報恩の誠をつくさんことを期す。

教範には、信条について次のように記されています。

◎聖句・信条・道訓を金剛禅の実践論として理解する。聖句はその原則であり、信条・道訓はその適用である。

◎信条は、実践の大要を、道訓は、その具体的な細目を、それぞれ指示したものであると認識し、行動することが大切である。(少林寺拳法教範上巻 第4章 1、道訓の位置づけ)

つまり、信条とは、実践すべき内容だということです。年少用の読本には、意味が次のように書かれています。

一、私たちは、ダーマから受けた尊い「命」によって生かされていることを喜び、その不思議や働きととりわけ自分を産み育ててくださった両親への感謝の思いを行動で表すことを決意します。

ダーマとは、少林寺拳法教範には、次のように記されています。

ダーマは宇宙の根本実相であり、大生命力であり、大光明であり、大霊力である。この大霊力は無形なるが故に、見ることは出来ないが認識できる。

時間と空間を超越して、存在する大引力であり

凡ての生物を、生成化育する、大生命力であり

因果応報の、道理を司る、大霊力である。

その力は無限であり、無量であり、無等々である。この大霊力を我等はダーマと称え、信仰しているのである。人間は、この大宇宙の大霊力の分身として存在し、その分霊たる靈魂を所有していることを認識する。故に、靈魂とその在家である肉体を修養すれば、その本然の霊力を顕現せしめて、無病強健、歓喜悦樂の人生を経験して、天寿を全うし得ると認識するものである。(少林寺拳法教範上巻 第1編 13節 金剛禅の教義)

この世界、この宇宙が存在するのは、我々の認知を超えた大いなる力によるもので、その存在は感じられるし、私たちが今ここに生きているということは、その大いなる力の働きに他ならないということです。そして、実際には、私たちはその身体を私たちの両親から受けたのであり、それが「魂をダーマよりうけ、身体を父母より得たること」という言葉で表されているのです。では、「報恩の誠を尽くす」とはどういうことか。年少用の読本には、「両親への感謝の思いを行動で表すこと」とあります。これには多くの意味が含まれていると思います。一般的に親孝行をするというのは、小さい子であれば、肩を叩いてあげるとか、大きくなって、働いた給料で何かをプレゼントするとか、そういう、何かをしてあげるということもあります。しかし、親として一番嬉しいことは、子どもが、どれだけ“善く生きているか”ということではないかと思えます。その“善く”ということこそ、少林寺拳法でいう“自己確立”と“自他共楽”に他なりません。つまり、自分の生き方に自信を持ち、関わりのある人たちのことを大切にしながら、世の為人の為に精一杯生きている、そういう姿を見ることが出来たら、親としては本当に嬉しい。私はそう思います。世の中、価値観はいろいろありますから、子どもに違う生き方を期待する親もいるでしょう。それはそれで良いと思います。とにかく、精一杯生活してくれることです。

私たち大人も同じです。社会での責任を自覚し、しっかりと果たすことです。人は一人ではありません。家族親族や組織の仲間等、たくさんの関係の中で生きています。一人一人の行動が、その家族や組織と同じように見られることは多々あります。事件等が起きて、犯人や容疑者が報道されるときも、名前や年齢と一緒に職業や経歴までも報道されます。人は、その人の背負っているたくさんの関係性と一緒に見られているのです。信条の「報恩の誠」とは、私たちの関係する全ての人や集団、組織に対して、一人一人が責任ある行動をとること、周りからも、尊敬の念を持たれるように行動するという意味も含んでいるのだと思います。与えられた命を、自分の関係性の中で、精一杯生きること、それも“善く”生きよう努力することが大切なのです。

結手

## 連絡事項

### 1 納会について

日時場所 12月23日(金) 北浦和駅東口「白木屋」にて。午後5時より開始。

会費 大人5000円 中高大学生 4000円 小学生以下無料